

論点整理表（第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績）

資料4

No.	ページ	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
1	全体	質問	今年度で新型コロナウイルス感染症は一定の区切りがついたことと思うが、令和元年から令和4年までの4年間を振り返り、コロナがもたらした影響やその対応について、大学としてどのように評価しているか。	新型コロナウイルス感染症により海外渡航が困難となったことから、海外での留学、研究等の国際交流関連活動への影響が非常に大きかったと考えています。オンラインを活用し、協定締結校等との交流機会の創出や、語学研修プログラムの企画・実施等に取り組んだほか、国際教養大学の外国人学生等との交流機会を設けるなど、教職員が一体となって創意工夫を繰り返し、基本理念の1つであるグローバル人材の育成に努めたところですが、コロナ禍以前のような国際交流の機会を創出することは難しかったと考えております。	企画課
2	全体	質問	いわゆる中間評価を実施して、次期中期計画に向けて見えてきた課題があったら教えてほしい。	中間評価の結果を踏まえた本学の課題として、外部資金の獲得先である科研費の採択数および海外留学等の参加者数がいずれも目標値に達していないことが挙げられます。前者については、支援策のより一層の充実を図るため、採択を得るのに必要な実践的なノウハウの共有が必要だと考えており、後者については、渡航等に向けた経済的支援のほか、海外でのアーティスト活動等に関する学生の興味・関心を引き出すとともに、語学をはじめコミュニケーション能力の向上に向けた支援が必要だと考えています。	企画課
3	全体	意見	業務実績についてはよく理解したが、掲げた目標に対しての評価なのであれば、結果がわからないと自己評価についても謎しかない。結果はどうであれ、学校側が「行った業務」に対する評価をしているのならば、何のための評価なのかよくわからない。	ご意見のとおり、中期計画の各項目に例えば数値目標を設定していれば、取り組みに対する結果が定量的な評価となり明確になると考えられますが、数値目標を設けることが難しい項目もあり、第2期中期計画で7項目のみの設定となっております。このため、数値目標が設定されていない項目に関する自己評価は、大学の取り組みに対する定性的な評価となっております。なお、第3期中期計画では、より多くの数値目標を設定するよう検討してまいります。	企画課
4	5	質問	【学生への支援に関する目標】○学習相談等の充実 学生が教職員に対し、積極的に相談できる体制の充実を図る。という部分の業務実績だが、文章を見ている限り、学校側が学生に対して面談・相談等をしていたのはわかるが、「学生が積極的に相談できる体制」に対する取り組みはどのようなものがあったのか。	学生が積極的に相談できる体制作りのため、各教員が研究室等で相談に応じる時間帯を定めて学生に明示する「オフィスアワー」という取り組みを実施しています。各教員の対応可能な日時は、学内連絡掲示板等を通じて学生に広く周知しています。	学生課

No.	ページ	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
5	7	意見	生活支援の充実の経済的な支援に関して、「情報提供や各種手続きのサポート」を行った結果について、年度実績のような数値の記載があっても良いのではないかと。	ご指摘を踏まえ、中期目標の計画期間の終了時に取りまとめる業務実績には、数値を記載いたします。	学生課
6	7	質問	大学院の進路決定率について、対象学生は多くないと思うが、2年連続100%という結果になったことについて、何か特別の対策があったのか。	進路・就職支援については、大学院・各専攻の担当教員とキャリアセンター職員が連携しながら大学全体で取り組んでおり、ご指摘のとおり、大学院生の人数は少ないものの、こうした取組が成果に繋がっていると考えています。	学生課
7	8	意見	科研費の申請数の数値目標が、中期計画期間中60件というのは、1年平均10件ということなので、計画として少なかったように思う。	第2期中期計画策定時（平成30年度）は、全教員および助手が計画期間中におおむね1回申請することを想定して数値目標を設定しておりました。勉強会の実施をはじめ各種科研費申請支援に取り組んだ結果、その甲斐あって、すでに目標を上回る申請数（71件）を達成している状況を鑑みると、結果的に、委員のご意見のとおり、数値目標がやや少なかったため、次期計画の策定時に生かそうと考えております。	企画課
8	9	質問	科研費の採択数が伸び悩んでおり、残り2か年での達成は難しいように思うが、採択件数増加に向け、今後どのような取組を行っていく予定か。	過去に科研費を獲得した研究課題の研究計画書閲覧制度や、外部の専門機関による研究計画調書の添削指導の継続実施に加え、学長および科研費獲得実績のある本学教員を講師とした学内勉強会を開催し、より実践的なノウハウを学内で共有することで、採択件数増加を図ってまいります。	企画課
9	19	質問	自己評価委員会には、教育研究や大学運営の改善という機能があると思うが、PDCAという自己評価システムの改善という機能はどこにあるのか。この中期計画期間で認識された評価システム改善の必要性と見通しはどうか。	自己評価委員会は、教育研究や大学運営の自己点検評価のみならず、自己評価システムの改善機能も担っています。地方独立行政法人法の改正により、今後、年度計画の策定・自己点検評価およびこれに対する法人評価委員会による評価の受審がなくなるため、これらに代わる内部質保証の維持・向上を図る本学独自の自己評価システムを確立する必要があると考えております。	企画課